

法人名

公益財団法人大阪府漁業振興基金

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

30年度の 成果測定指標	単位	30年度の目標値	30年度の実績値
栽培漁業センター見学者数	人	6,850	4,550

未達成の要因と分析	この指標は、①栽培漁業センター施設への見学者数と②イベントにおける稚魚の体験放流参加者数とを合算したものであるが、平成30年度は台風21号の影響で施設が損壊したため見学対応を休止した事、また同台風や度重なる豪雨の影響で体験放流等のイベントが中止となったこと等により、目標値を下回る実績となった。
今後の改善方策	基金のホームページで栽培漁業の取組みについて説明するとともに、稚魚の放流時に報道提供を行うなど、広く府民に対し、栽培漁業についてPRする。

〔2〕

30年度の 成果測定指標	単位	30年度の目標値	30年度の実績値
稚魚歩留まり達成率	%	125.0	123.8

未達成の要因と分析	<p>「稚魚歩留まり」は、中間育成を行っているヒラメ、マコガレイ、キジハタについて「放流（中間育成終了）尾数」/「種苗生産（中間育成開始）尾数」で算出する。この結果、平成30年度の歩留まりは61.9%となった。（ヒラメ 12万尾/23万尾 マコガレイ 16万尾/20万尾 キジハタ10万尾/20万尾）</p> <p>一方、大阪府栽培漁業基本計画（基金中期経営計画）における最終年度（平成33年度）の歩留まりは50%（ヒラメ10万尾/20万尾 マコガレイ10万尾/20万尾 キジハタ 10万尾/20万尾）であるため、達成率は61.9%/50%= 123.8%となる。</p> <p>歩留まりは同じ魚種でも卵の質や稚魚の活力、餌の状態、飼育密度などに影響を受け、年度により歩留まり率に20～30%の幅が出てくる。30年度歩留まり達成率の目標値については、前年度を上回る値としたが、種苗生産尾数が多かったこともあり、若干目標値を下回ったが、一般的には50%残れば良好な状況であるため、概ね適正な歩留まり率を維持していると言える。</p>
今後の改善方策	<p>優良な卵を採れるよう、親魚の温度管理や栄養強化を行うとともに、稚魚への適正な配合飼料の給餌、選別等を行う事により、歩留まりの向上に努める。</p> <p>また、歩留まりの目標値については、大阪府栽培漁業基本計画の最終年度の目標歩留まりの50%（達成率は50%/50% = 100%）とする。</p>